第31号　2012年11月20日発行　認定ＮＰＯ法人　市民活動センター神戸　発行人・中田豊一　編集人・諏訪晃一

みみずく

第31号

復興・市民活動情報誌

2～5　ひょうごコミュニティ基金
・創設のうごき
・CSR セミナー報告
・「共感寄付」始まりました！
・Kifu KOBE

6　避難サポートひょうご始動

7　認定 NPO 法人取得を目指してみませんか

8～9　2011 年度事業報告と 2012 年度方針
事務局通信

10　カレンダー／ご入会・ご寄付お礼

認定ＮＰＯ法人 市民活動センター神戸　Kobe Empowerment Center(KEC)
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル3階　TEL:078-367-3336　FAX:078-367-3337
E-mail　office@kobekec.net　　URL　http://www.kobekec.net

コミュニティ基金の意味

iPS細胞の研究で山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞した後、「研究を応援したい」と、多くの市民からの寄付が続いた。なぜ今回、こうした動きが広がったのだろうか？

その訳は、研究資金の不足を補うため、山中教授がインターネットの寄付サイトJustGiving に、自らのチャレンジ（京都マラソンでの完走に寄付を！）を登録していたことだった。つまり「寄付の窓口」が開かれていた！ そこで、本稿を書いている10月20日時点で、約2200件、2400万円もの寄付が集まった。

寄付したくなる夢のある事業や団体と寄付したい人をつなぐ「仕組み」があると、夢への共感を寄付に託し、その寄付で夢の実現を進め、その成果を受けて寄付が集まる…という「循環」が始まる。

この循環の「仕組み」を市民自ら創りあげようという取り組みが、各地で、そして兵庫でも進んでいる。コミュニティ基金や市民ファンド、コミュニティ財団などと呼ばれる取り組みだ。「基金」「財団」というと、大企業が数十億円を積み立てるスタイルを思い浮かべやすい。しかし、この基金のスタイルは、かなり違う。

まず、資金は多くの市民や団体から募る。その際、寄付と共に「託したい思い」を受け留め、その思いが実現できるプロジェクトに助成する。プロジェクトは、提示されたものから選ぶ場合が多いが、寄付者が託したいテーマを自由に申告できる場合もある。

また、この基金は積み立てて得た利息で助成するのではなく、随時、取り崩していくのが一般的。そこで、一定額の利息が生み出せない小規模の寄付でも、十分に役に立つ。助成事業に普通の市民が参加しやすいのだ。

しかも、行政等からの高額の助成金に比べて、少額でも多くの人々に託された寄付の方が丁寧に使われ、その分、大きな成果を上げやすい。とちぎボランティアネットワークの矢野正広常務理事は、これを「寄付金の呪術性」と名付けたが、確かに私も寄付して下った方々のお顔が浮かんで気持ちが引き締まった経験がある。そうして、プロジェクトが成果を上げ社会が良くなっていけば、寄付者もまた元気になれる。

この基金創設で大きな課題となるのが運営費だ。基金には、良いプロジェクトを探し、広く周知し、寄付を募り、成果を報告する…という役割があるが、この作業には当然、経費が必要だ。しかし、この資金獲得が大変だ。寄付の1、2割を事務費として受けたり、基金自体への寄付を募ったり、創設団体が自己負担したり…と、様々な工夫がなされている。

創設への課題も多いが、市民社会を高める大切な仕組みだ。基金創設に向けた応援が広がることを期待したい。

市民活動センター神戸　理事
日本ＮＰＯセンター　代表理事
早瀬　昇

ＫＥＣカレンダー　(2012.4.1～9.30)

1. NPO 支援事業
(1)NPO 経営支援事業
◎認定 NPO 法人事前相談事業（4/1～神戸市より受託）
【事前相談】4/18 より毎水曜日開催
【説明会】4/25、5/23、6/23、8/30
◎神戸市アドバイザー派遣・サポーター事業
【アドバイザー】7/19
【サポーター全体ミーティング】6/6、7/4
(2)ネットワーク事業
◎ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局
運営委員会（5/31、7/19、8/30）
6/21 総会
(3)拠点提供事業
◎神戸元町 NPO ポート事業
6/30（特）子どもフレンドリーネット・神戸様、（特）不動産消費者保護支援機構様退去
2. NPO のための資源仲介事業
◎ひょうごコミュニティ基金創設事業
検討会（4/13、4/24、5/8、5/22、6/12、6/26、7/10、7/24、8/9、8/28、9/11）
8/2 拡大検討会
9/21 CSR セミナー
◎資金循環および情報発信力向上事業
8/31 第 1 回共感助成参加団体説明会
参加団体ヒアリング（9/5、9/8、9/11、9/12、9/14）
9/15 共感をつなぐレポーターオリエンテーション
◎市民ファンドの共同広報事業
6/12 運営委員会
6/21 Kifu KOBE サイトオープン
7/26 Kifu KOBE ポスター発行
作業部会（4/16、5/22、7/10）
◎神戸文化支援基金事務局
6/19 評議員会、理事会、Kobe Art Award 選考会
8/10 Kobe Art Award 発表会
9/13 東日本特別支援助成　追加選考会
◎住友ゴム CSR 基金
助成団体訪問（6/14、6/18、6/19）
◎SAVE JAPAN プロジェクト
6/8 全国事例共有会議
8/19 ミドリガメ捕獲実態調査
8/26 寺田池で自然を学ぼう！
3. 調査研究、政策提言事業
◎ひょうご NPO 研究会（HYOGON 主催）
研究会（5/11、6/28、7/12、8/2、8/22、9/13）
4/1 公開学習会
◎手引き改訂プロジェクト
プロジェクト会議（6/5、7/6、8/3、9/7）
7/27 全体会議
◎機関誌「みみずく」発行事業
5/20 みみずく 30 号発行
4. 東北支援事業
◎被災地 NPO 応援基金
6/7「あなたの近くの福島のこと」開催
◎集会・ネットワーキング
避難者支援会議（7/13、8/20）、世話人会議（9/20）
◎東日本大震災 NPO 育成・強化プロジェクト
6/13-14 集合研修「NPO を磨く 15 の力」
9/1-2 第 1 回全体会議
9/3 NPO 法人ココネット・マム（郡山市）訪問
9/28 つながっぺ南相馬・今野代表来訪
5. その他の事業
◎JICA 地域別研修事業
3/26-4/28「災害に強いコミュニティ作りに向けたボランティア・マネージメント」実施
6. 管理
理事会（6/18、8/11）
9/15 総会

ご寄付、ご入会をいただいたみなさま

（個人／団体別、都道府県／地域別、敬称略、2012年4月1日～9月30日受付分までを記載）

東日本大震災被災地 NPO 応援基金
【個人】
東京都
横山 チエ
高知県
竹内 律

※匿名ご希望2名

【団体】
兵庫県
寺田池協議会
（特）はらっぱ
福岡県
（特）ふくおか NPO センター

一般のご寄付
【個人】
滋賀県
阿部 圭宏
京都府
品田 房子
室崎 益輝
奈良県
木村 功
大阪府
朝野 まどか
今田 忠
直田 春夫
兵庫県
井上 小太郎
興津 慶
実吉 一夫
実吉 威
島田 誠
清水 将之
中田 豊一
飛田 雄一
藤田 研
松岡 香江
宮崎 洋彰
森田 博一
山崎 ゆり
山下 淳
山田 裕美
広島県
金谷 信子
熊本県
八ツ塚 一郎

※匿名ご希望3名

【団体】
兵庫県
アート・サポート・センター神戸

賛助会員
【個人】
大阪府
上田 法穂
兵庫県
神田 栄治
小林 正平
実吉 一夫
山崎 啓子
山下 邦雄

賛助会員
【団体】
兵庫県
アート・サポート・センター神戸
（特）こどもコミュニティケア

ひょうごコミュニティ基金 設立へのご寄付（預り金）
【個人】
兵庫県
下村 安男

KECへのご寄付は
所得税の税金還付など
税制上の優遇措置が
受けられます！

ご寄付・ご入会・ご継続ありがとうございました！みなさまからのご期待に応えるべく、一同努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

進んでいます！

「ひょうごコミュニティ基金」創設の動き

ＫＥＣほか兵庫のＮＰＯ支援組織は、昨年度後半から「兵庫に次の時代の寄付文化を創り、市民活動を支える資金の流れを生み出す」を合い言葉に、「ひょうごコミュニティ基金」創設へ向けた動きを進めてきました。

構想から１年。この 10 月にはいよいよ先行プログラム「共感寄付」もスタート、新たな寄付文化へのチャレンジが始まっています。本格化してきた基金創設への動きをご報告します。

なお、活動の進捗についてはウェブサイトもあわせてご覧ください。（http://hyogo.communityfund.jp/）

前号のご報告から約半年、基金づくりの動きが加速してきました。

この間、多くの方々にお会いして市民活動を支える基金設立を訴えてまいりました。幸い、数多くの皆さまからご理解ご協力を賜っています。厚く御礼申し上げます。

さまざまな関わりを

その中で、各界のリーダーの方々に旗振り役をお願いしたいと「基金応援団」ご参画をお願いしたところ、神戸市長を始めとする皆さまにご参画をいただきました。

この応援団以外にも、個人・企業などから有形無形のご支援をいただいています。まだ設立募金は公式には始めていないのですが、幾人もの方から設立資金をお預かりしています。

資金以外でも、いくつもの企業が社員の皆さまに後述の「共感寄付」のパンフレットを配布するなど、情報提供の便宜を図ってくださいました。また、店頭にパンフレットを配架するなど、顧客の皆さまに伝えてくださっている企業・団体もあります。

このような「さまざまな形の関わり」をありがたく、嬉しく感じています。それをこの基金の特徴にしたいと願っています。

なぜコミュニティ基金？

とはいえ、基金設立への道のりはそう平坦ではありません。山もあれば谷もあり・・・小さな石をこつこつと積み上げていく、地道な作業です。私たちの表現力や思いがまだまだ足りないのでしょう、当たっても当たっても、なかなか道が拓けないと感じることもあります。しかし一方で、思いがけない方角から強力な援軍が現れることもあり、そんなときにはお知恵やご協力の中身以上にそのお気持ちに励まされます。

そもそもなぜコミュニティの市民活動基金が必要なのか。これが一番の原点です。

◎社会課題に取り組む市民活動を、もっともっと資金面で支えたい。

◎ご寄付いただく側にもっと多くの選択肢をお示しすることで新たな寄付文化を創造したい。

◎地域の中で、顔の見える関係を作りながら、資金の循環も生んでいきたい。

兵庫県内のＮＰＯ法人は約１９００。任意団体も含めれば数千から万の単位の団体が、地域の課題に取り組んでいます。その活動を支える資金は、制度化された福祉事業などに比べると、圧倒的に不足しています。民間活動を支える従来からの募金の仕組みも、ＮＰＯなどの新しい活動はなかなか対象になりません。反面、介護保険等の事業を行うと、社会福祉法人は非課税でＮＰＯ法人は課税という不公平な状況もあります。

「民の活動を民で支える」。そのことが本当に本当に必要とされているのです。

寄付者のニーズも受けとめたい

一方、寄付者の側のニーズも大きいと感じています。「自分が共感する活動に資金を出したい」「何か社会の役に立ちたいが、どこを応援したらいいか分からない」などのお声をよく伺います。企業でも、会社としての社会貢献以外に、社員の寄付やボランティアという形の社会参加をサポートしたいという会社が増えてきています。

寄付者の「選択」をお手伝いし、寄付者とＮＰＯとを仲介する。社会の中でそこが一番のボトルネックになっており、そこを埋めようというのが「ひょうごコミュニティ基金」です。さらなるご支援をお願いいたします。

以下、基金創設への近況をお伝えします。

●「共感寄付」スタート！

「ひょうごコミュニティ基金」の先行プログラムとして、今年度は認定ＮＰＯ法人市民活動センター神戸の税制優遇資格を活かしたプログラム「共感寄付」を10月にスタートさせました。（→4ページ）

●基金本体の設立へ向けた支援者集め

「応援人」

広範な市民の共感に支えられて始めたいとの思いで、兵庫を中心とする全国の皆さまに応援人になって頂いています。10月31日現在、５３４人。もっともっと多くの方に、共感の輪を広げていかないといけません。ご協力をよろしくお願いいたします。

「基金応援団」

年内をめどに、数十名の方に基金設立への呼びかけ役をお願いしようとしています。

●基金の愛称・ロゴの公募

この11月から「ひょうごコミュニティ基金」の愛称とロゴの公募を始めています。詳細は同封チラシをご覧ください。

●ＣＳＲセミナー

兵庫地域ではおそらく初めてとなる、企業ＣＳＲセミナーを9月21日に開催しました。第2回を現在企画中です。（→3ページ）

●市民ファンドの共同広報サイト「Ｋｉｆｕ　ＫＯＢＥ」

神戸の「市民ファンド」の認知度向上を目的に、共同広報サイト「Ｋｉｆｕ　ＫＯＢＥ」を6月に立ち上げ、運営しています。（→5ページ）

（文：実吉威）

2012 年度 下期以降のスケジュール

10 月	共感寄付スタート
11 月	基金の愛称・ロゴ募集開始
12 月～ 2013 年	共感寄付（第２次）公募
2 月	基金応援団発足
	基金の愛称・ロゴ発表
2～3 月	基金 CSR セミナー（2）開催
2～4 月	設立資金の募金運動
5 月頃	設立記念集会
6～7 月	一般財団法人設立
9～11 月	公益財団法人へ（公益認定）

第１回「兵庫・神戸 3.0」ＣＳＲセミナーご報告

９月 21 日（金）午後３時から午後５時まで、神戸センタープラザ西館会議室でＣＳＲセミナーを開催しました。会議室が満員となる 34 名の方々に参加頂き、盛況のうちに終えることが出来ました。

このセミナーは「ひょうごコミュニティ基金」創設事業の一環としての実施です。

企業が市民や NPO 等とともに活動し、地域や社会に求められる企業となり発展を続けていくことを目指します。このセミナーを通して私たち NPO が企業とのパイプを太くし、企業のより良い社会貢献のお手伝いが出来ればと思っています。

■■ セミナーの内容って ■■

兵庫県産業政策課・西躰和美課長、神戸新聞社会部・長沼隆之デスク編集委員にご挨拶頂きました。企業・市民・NPO の連携協力により、これからの地域経済組織の在り方を変えていくことや、マスコミは企業と地域が関わり合うムードを高める役割等のお話を頂きました。

基調講演の朝日サスティナビリティ・マネジメント高田誠代表は、そもそも CSR とは？から始まり、社会貢献の差別化、プランニングなどについて、わかりやすく説明。

説明に熱が入り、時間の押したディスカションでは、企業の社会貢献を実施する上で、何をやっていけばいいかなど悩みや難しさなどを意見交換しました。

■■ 参加の方々の反応は？ ■■

当日のアンケートによれば、全体を通じて、「満足」が半分以上とご評価いただき、やや満足を含めると100％でした。ディスカッションでは、「満足」の数は少なく時間不足とか、やり方に一工夫必要などのご批判を賜りました。

次回は、さらに参加して良かったと思えるような内容にしていきたいと考えています。

皆さまのご参加をお待ちしています。

（文：永田譲蔵）

当日の様子

しあわせな未来は、わたしが選ぶ。共感寄付

「共感」を寄付にしてNPOにつなごう
「共感寄付」始まりました！

2011年9月から兵庫県から地域づくり活動基盤整備事業スーパーNPO育成事業を受託して、県内で新しい寄付の仕組みを始動しています。

活動資金の不足、寄付の集め方がわからない、会員や支援者が増えないなど悩みがあるNPOも多い一方で、寄付でなにか社会的貢献をしたいがどうしたらいいか分からない、手軽に寄付出来る方法が知りたい、寄付先を紹介してほしいなどの希望もあります。「共感寄付」は双方にニーズをつなぎ、社会的課題の解決に結び付けるように促すための仕組みです。

こんな仕組みです

社会的課題に取り組む団体から寄付を集めたい活動を提示していただき、ウェブサイトや冊子などのツールを活用して、各団体とKECが一緒に寄付集めに取り組みます。寄付者は自分が共感をもった活動を応援したい先として選んで寄付をし、KECが寄付の受付窓口となって一括して集めます。

寄付者にとっては、ネットからクレジット決済による寄付も可能という手軽さと、確定申告を行うことで税制優遇を受けられるのがメリットです。

集まった寄付は事務手数料を差し引き、寄付者の希望を最大限尊重した上でKECから各団体に助成します。各団体からは活動状況の報告、スタッフや活動に関わる人々からのレポートなどの情報を受け取ります。

カタログができました

各団体の活動を「カタログ」にして寄付を集めます。専用のウェブサイトとパンフレットを作成し、広く市民の皆さんや地元の企業に寄付を呼びかけていきます。ウェブサイトでは、寄付や活動の進捗状況に加え、団体の担当者や事務局からの熱いメッセージなどをお届けします。

ウェブサイトを訪問、もしくはパンフレットを手にとっていただき、この活動を応援したい、この活動って大切だなと思われたら、ぜひ「寄付」という形で共感の気持ちを表していただければ嬉しいです。そして、ご家族や友人、周りのかたに「こんな活動があるよ」「こんな団体がいるよ」と共感の輪を広げていただければと思います。

上：ウェブサイト（http://kobekec.net/kyokan/）
下：パンフレット

第一次には6つの団体が参加

初回は神戸を中心に活躍する次の6つの団体が参加、寄付を募集中です。第二次も年内に公募開始します。

●「まちはイキイキきらめきタイム」一緒につくりませんか？「聴くだけのラジオ番組」から「つながるラジオ番組」へ！

（FMわいわい）

「まちはイキイキ…」は平日お昼の帯番組。地元地域の人々が番組作りに参加しています。地域の人々のつながりを広げ深めるために、番組以外でのネットワーキングをはかります。より多くの人が参加しやすい仕組みや定期的な交流の機会をつくり、番組活性化を図るプログラムです。

●精神障がい者の「集う・語る・学ぶ」をサポート！

（すまみらい）

外見からは見えにくい障がい特性もあって、周囲から理解されないために就労できているのは1％未満というのが現実。当事者が集まり語り合う中で互いに力づけしあいながら、互いの立場を理解しやすいというメリットを生かしてヘルパーなどの就労につながるように応援するプログラムです。

●「地域の居場所」で広げる人の輪づくり

次世代の担い手育成に向けて

（福祉ネットワーク西須磨だんらん）

2012年に出来たばかりの、地域の高齢者を中心に居場所になっているサロンです。子育て支援講座など多様な世代が参加しやすいプログラムを開発し、より多様な人々が集まる場所をつくり、次世代の在宅生活支援者など育成していくための事業です。

●「希望」に向けてDV被害女性とこどものスタート応援活動

（ウィメンズネット・こうべ）

DV被害者の女性とその子どもが暴力から逃れ、心身を休めて新しい生活をはじめるためのシェルターを運営しています。そもそもDVについての社会的理解も十分ではないので、制度的にも未整備です。物心両面からケアする活動で経験と専門知識のあるスタッフが必要です。

●障がいを持つ子どもの「のびのびしたい」と家族の「ほっとしたい」を応援したい

（拓人こうべ）

障がいをもつ子どもたちを週末や長期休暇に預かり、一緒に出かけたり工作をしたり食事を作ったりして子どもの育ちを見守る活動です。子どもたちの社会性を育成する一方で、親にとっては手が離れることで自分の時間を持てるようになります。子どもたちが外出するための費用や、ケアをする人材のための寄付を募ります。

●医療的ケアや配慮を必要とする子どもたちとの共生保育「ちっちゃなこども園にじいろ」

（こどもコミュニティケア）

一般の幼稚園や保育園には受け入れてもらいにくい、生まれつきの病気や障がいをもつ子どもたちも一緒に保育しています。一人ひとり個別に見守るために、手厚いケアが必要です。その活動を支え、保護者の経済的な負担を少しでも軽減するために寄付を募ります。

市民レポーター活躍中！

共感寄付では、寄付集めを通じて地域の課題をみんなで共有すること、そしてその課題解決にとりくむNPOのファンを一人でも増やしていくことを大切にしたいと考えています。そこで企画したのが、ボランティアレポーターによる広報・情報発信の仕組みです。寄付募集に挑戦する団体を訪問・取材し、その活動の魅力や感じたことを、市民目線で広く社会に発信していただこうというものです。

KECの会員や、ひょうごコミュニティ基金の「応援人」を中心に協力を呼びかけたところ、急な声かけにもかかわらず5人の方に手を挙げていただきました。9月に開催したオリエンテーションでは、取材をするときの心構えや文章作成のポイントについて学びました。さっそく10月から取材が始まり、熱のこもったレポートが寄せられています。NPOと寄付者の「共感をつなぐ」レポーターの活躍は、ウェブサイトで随時報告していきます。

（文：奈良雅美、入江陽子）

神戸・兵庫で活躍する市民ファンド共同での広報活動
Kifu KOBE

神戸は、市民の発意で設立された市民活動を支える基金（＝市民ファンド）が複数ある全国的にも珍しい地域です。しかし、草の根的な活動の小さな基金が多く、広報活動を行う時間も人手もかけにくい現状があります。そこで、市民ファンド（市民基金）自体の認知度をより一層高めるため、神戸という狭い範囲に市民ファンドが複数ある背景を活かし、共同で広報活動を行うものです。

具体的には共同のPRツールとして、第1弾としてウェブサイト「Kifu KOBE」を今年の6月にオープンし（※）、第2弾はサイトの宣伝ポスターを7月に発行、さらに第3弾としてポストカードなどを作成します。

Kifu KOBEのウェブサイト（http://kifukobe.jp）

また、これらの広報物だけではなく、寄付者、助成を受けた団体、仲介する市民ファンドの3者が出会う場としてのフォーラムを企画しています（2013年初頭予定）。

※8月からはネット決済（VISA、Master Card対応）の仕組みを導入しています。

（文：大伴直也）

東日本大震災支援

「避難サポートひょうご」始動！

1000名を超える方々が兵庫県に避難されてきています。避難者の生活を少しでも安心なものとするためには、兵庫の社会資源と避難者とをつないでいくことが大切と考え、避難者支援のネットワークを立ち上げました。兵庫県にいてもできる東日本大震災支援、広がる支援の輪にご注目ください。

関西・兵庫への避難者

東日本大震災から1年7か月以上が経過しました。しかし10月10日現在、いまだに32万人を超える多くの方が、震災と津波そして原発事故により避難生活を余儀なくされています。そのうち関西圏への避難者は公式発表で4200名、兵庫県でも1000名を超える方々が、避難生活を過ごされています。

避難者は、避難元の住所地が福島県か、東北3県か、その他かによって避難先で受ける公的な支援が大きく違い、また世帯ごとの避難、母子避難、原発関連の補償があるか、などによっておかれた境遇に大きな違いが生じます。よって、ひとくくりに「広域避難者」と呼んでしまいますが、おかれた状況の違いにより、個人個人に寄り添った様々な支援が必要になります。

兵庫のNPOによる支援

昨年から物資提供や引越支援、交流サロン・カフェ、交流イベントの実施など、手探りのなか、兵庫のNPOによる支援活動が展開されてきました。

避難生活への支援の質の向上と、支援団体間の情報と課題の共有、そして連携した支援体制の検討などを目的に、避難者支援団体のネットワークづくりを4月から準備し始めました。

ネットワークへ

避難者支援の問題は長期化し複雑化することが予想されます。困難な課題に向けてどのような応援が我々にできるのか、一緒に考えていくような場を早いうちにつくっておきませんかと各支援団体にお話しに上がりました。

支援団体には、従来の事業活動と避難者支援とで忙しくされているところにお邪魔しましたが、兵庫県域での支援団体の横のつながりの必要性をご理解いただき、兵庫県社協を始めとした社協、NPO、弁護士など19の団体や個人のご協力を得て、避難者支援ネットワーク「避難サポートひょうご」が立ち上がりました。

「避難サポートひょうご」の活動

8月20日には、第一回目の避難者支援の勉強会&意見交換会を行い、そこであがった避難者支援に関する課題を膝を突き合わせて考えました。

10月21日には被災した当事者でありながら支援情報の発信活動をされている「まるっと西日本」（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）代表の古部真由美さん（茨城県から母子避難中）をお招きして勉強会を行いました。情報発信だけでなく個別の相談にも乗っている現場から切実なお話をうかがい、必要な支援強化体制づくりの方向性を検討しました。また古部さんの活動自体を、支援団体がどう支えられるかということも課題としてあがりました。

11月17日には、県内各地域で立ち上がっている避難当事者グループの座談会&ディスカッションを行い、支援の質の向上をみんなでさらに考えていきたいと思います。

これからの課題

避難者の7割が母子避難といわれています。なぜ母子避難の方がこれほど多くなってしまったのか、支援にあたり行政も民間もそのことに思いをよせることが大切だと感じています。

せめて大切な子どもたちには放射能の影響の少ない関西の地で健やかに育ってほしい、そういった思いで兵庫県まで避難されてきています。避難されるまでの葛藤、家族間の衝突、避難されてからの不慣れな土地での生活・・・。

長期化する避難生活に離婚問題なども顕在化しています。メンタル面の問題、放射能による健康被害なども見聞きするようになりました。母子家庭と似た境遇でありながら、支援の手がなかなか届いていません。柔軟な就労支援やいつでも利用できる健康診断、また個別のパーソナルサポートの必要性が増していきます。

今後も、どのような応援の仕方があるか考える場を持ち続け、避難者とまだつながりのない社会資源（地域の持つ力やNPO活動、専門支援など）とを結びつけ、支援の輪をひろげていきたいと思っています。

東日本大震災の被災地は東北ですが、関東にも、そして私たちの住む関西～兵庫～神戸にも、被災されてる方々が多くいることに関心を持っていただければ幸いです。地域がどのようにこの課題を乗り越えていくか、皆さまからのご支援をお願いいたします。

（文：藤本高英）

第2回「避難サポートひょうご」の様子

認定NPO相談窓口事業

「認定NPO法人」取得の可能性を探ってみませんか？

「認定NPO法人」という制度をご存知ですか？9つの要件をクリアすることにより、4つの特別な税制優遇をうけることができるNPO法人になれる制度です。この4月から当会では神戸市内のNPOの認定申請相談を受け付けています。20団体を超える認定NPO法人チャレンジの相談を受けてみて思うことは、認定制度は多くのNPOがめざせる制度であるということです。

認定NPO法人制度とは、NPO法人のうち「広く一般市民から支持されているかどうか？」という指標であるパブリックサポートテスト（以下PST）のクリアや、適正な運営をしているか？などの9つの要件を満たすことにより、寄付制度に関する4つのメリットを受けることができるNPO法人になれる制度です。認定NPO法人に寄付した人が寄付金控除を受けることができたり、法人からの寄付金の損金算入額が大幅にアップしたりなど4つの特別な税制優遇をうけることができ、法人への寄付の促進を図ることができます。

昨年から要件緩和が進み、今年の4月からは認定NPO法人の窓口が国税庁から所轄庁（神戸市）に移り、認定NPOに関する事務手続きが非常に身近になりました。また、「仮認定制度」という新しい取り組みもはじまり、全国的に注目が高まっています。

神戸市内における認定NPO法人でNPOを支援するNPOでもあるKECは、4月からの改正NPO法施行にともなって所轄庁となった神戸市から「認定NPO法人相談窓口事業」の委託をうけています。これまで20数団体のNPO法人から相談を受け、4団体が申請手続きを済ませました。またすぐに申請しないまでも、認定NPO法人になるために法人の状況に応じた相談支援を継続しています。

改正された認定NPO制度への注目は、前述した活動が広く多くの人に支えられていること、という要件であるPSTに集中されていましたが、この相談窓口事業を実施してわかってきたことは、意外と多くの法人がPSTをクリアできるということです。しかし一方でPST以外の認定要件がネックになっている法人もちらほらと。たとえば事業報告書を年度終了後3カ月以内に届けているか？というNPO法人としての基本的な義務が改めて問われます。こうした認定申請に向けた動きの中で、これまでの事業活動における運営事務の適正さが確認され、改めるところは改めるといったことも必要になってきます。適正な運営やしくみの見直しなどの良いきっかけにもなります。

現在、毎週水曜日に認定NPO法人申請の個別相談と、隔月ごとに認定NPO制度の概要と、メリットや義務の説明など、制度の普及と認定NPO法人になるための基本的なことについて説明会を開催しています。

認定NPO説明会

経験豊富な相談員が団体の状況に応じた丁寧なアドバイスを行っていますので、お気軽に認定NPO取得の可能性を確認しにおいでください。

（文：藤本高英）

●認定NPOに挑戦したい！
認定NPO個別相談、予約受付中（毎週水曜日・無料、1日3団体）

●認定NPOのこと
わかりやすく知りたい！
認定NPO説明会申込受付中（12月19日（水）18時～20時、KEC2階会議室、要申込・無料、2月にも実施予定）

●お問い合せ
電話(078)367・3336
FAX(078)367・3337
メール　nintei@kobekec.net
（担当　フジモト）

2011年度の報告と2012年度の方針について

9月15日、KECの年次総会が開催されました。東日本大震災への支援と、新しい公共支援事業に象徴された2011年度を振り返るとともに、基金の創設を目指して大きく舵を切る2012年度の方針が確認されました。そのなかでメインとなるトピックをご紹介します。

■コミュニティ基金の創設

2012年度は、ひょうごコミュニティ基金の創設準備がKECの事業としては大きな柱になります。これまでの「みみずく」でもお伝えしているとおり、KECを含む兵庫県内のNPO支援センター6団体が力をあわせ、まずは一般財団を立ち上げ、公益財団化を目指します。

新しい基金づくりにエールを贈ってくださる「応援人」の募集、産・官・学など各界のリーダー的存在の方に旗振り役としてご協力いただく「基金応援団」の立ち上げ、そして一般財団の設立と、その先の助成事業に必要なファンドレイジングなどをすすめています。

寄付募集の先行的事例として、KECと地域の課題解決にとりくむNPOが共にファンドレイジングに挑戦する活動共感助成事業（愛称：共感寄付）が10月からスタートしました。

また、寄付文化の醸成にむけて、神戸市内の既存の基金が力をあわせて広報活動にとりくみます。神戸文化支援基金やしみん基金KOBEなど先輩格の基金と一緒に、広報専用のウェブサイトを7月に立ち上げました。（詳細や進捗状況については本紙2～5ページをあわせてご覧ください。）

■認定取得を目指す 個別NPOへの支援

認定NPOに関する法律が改正され、認定取得のハードルが少し下がったことで、支援ニーズが飛躍的に高まりました。2011年度は認定取得を目指すNPO向けの講座を数回にわたり開催しましたが、2012年4月からは、新たに神戸市からの委託を受けて、市内NPOを対象に認定取得に関する個別相談事業を実施しています。毎週水曜日に相談日を設けているのと同時に、隔月のペースで入門編となる説明会を実施し、幅広い支援ニーズに対応しています。この事業を通じて、制度の運用・解釈、またNPO側の事務運営などいくつかの課題も浮き彫りになってきました。神戸市と定期的に意見交換を行うとともに、NPOに対する適切な支援をすすめ、NPOと行政とが一緒になってより良い制度の確立を目指します。（詳細や進捗状況については本紙7ページをあわせてご覧ください。）

■東日本大震災への支援

東日本大震災の支援活動は、引き続き福島県を重点支援先としてすすめます。昨年6月から郡山市に派遣していた職員が、4月に神戸に帰任となりました。派遣中は、KECの現地パートナー団体である（特活）うつくしまNPOネットワークにおいて、NPOと行政との連携推進やボランティアグループのサポートなど、被災者支援活動のコーディネート業務に携わってきました。この経験とネットワークをいかし、今度は兵庫県に避難されている方を支援する団体の連携体制づくりにとりくんでいます。NPOはもちろん、社協、行政、弁護士などの専門家、そして避難者自身の自助グループが知恵と力を合わせ、避難者の生活を支えていきます。（詳細や進捗状況については本紙6ページをあわせてご覧ください。）

また全国的な連携のなかでは、日本NPOセンターが実施するNPO育成・強化プロジェクトにも参画しています。これは、被災地域のNPOのリーダーが長期的に活躍できるよう、地域特性への配慮や地域ネットワークの構築促進を含め、「寄り添い型」のリーダー育成を行うものです。

■ネットワークの力による市民活動の推進

～HYOGONや手引き改訂プロジェクト参画～

兵庫県下のNPOの大きなネットワーク力で市民活動が前進しています。

ひょうご市民活動協議会（HYOGON）では、「ひょうごNPO研究会」と題し、NPOセクター全体に関わるテーマについて検討する場を定期的に開催しています。外部講師を招いた公開学習会や、県議会との意見交換を行うなど、他のセクターあるいは県外NPOとの交流も進んでいます。なお、KECではHYOGON全体の事務局業務を引き続き受託しました。

また、加古川市のシミンズシーズが中心となり、NPO法人の設立・運営に関する手引きを改訂する事業を、NPO支援センターと行政との合同プロジェクトとして開始しました。KECはコアメンバーとしてこの企画に参加しています。今年3月に発行された新しい手引きはまだ暫定版ですが、NPOの支援に携わる現場の声がふんだんに盛り込まれました。4月以降は、この暫定版を実際に使用しながら改良をすすめるとともに、「認定NPO法人制度の手引き（仮称）」の作成をすすめ、平成25年3月の完成を目指しています。KECは認定NPOとしての経験と前述の相談事業の蓄積をもって貢献したいと考えています。

※事業報告はKECのウェブサイトでもご覧いただけます。

（文：入江陽子）

9月に開催された 2012年度KEC総会の様子

KEC事務局通信

● 歳が明ければ阪神・淡路大震災から満 18 年。この間の自分と社会の変化を思う。ついこの間まで「若手」のつもりだった･･･というのは無茶か。この 1、2年で多くの知己が鬼籍に。震災の頃、今の私とほぼ同年代だった方々。彼・彼女らが駆け抜けた十数年の軌跡を思う。そして振り返れば、周りには優秀な若手が数多く台頭。歳相応の責任を考える昨今。　実吉 威(じつよし たけし)

● 雨の日に元町のKECの1階のドアのところにびしょ濡れの子ネコがいました。縁あって我が家にきて 10 年目の「ハナ」です。それから6年ほどして、今度は1階のお店（当時）のみみずく舎に飛び込んで動かずの子ネコ、これまた縁があって我が家で預ることになった「メイメイ」です。私がKECに出かけるときには、ネコたちに「行ってきます」と声をかけます。　山﨑 ゆり(やまざき ゆり)

● 今年4月に開設された認定NPO相談窓口の副相談員として、主に相談記録の作成を担当しています。初めてKECの活動に関わらせていただいてからもう5年になりますが、内勤業務のため、KEC通の方はご存じという座敷童スタッフです。事務所で見かけられた折は「ああ、あの座敷童くん」と脳裏を過らせていただけましたら幸いです。 興津 慶(おきつ けい)

● 共感寄付に参加する団体を訪問してきました。団体としての姿勢もさることながら、取り組むスタッフのみなさんの熱意や思いに促されるように共感を覚えます。デスクでパソコンに向かっているより、外に出ると元気がもらえます。大きな金額の寄付もありがたいのですが、現場の人に触れ、当事者と関わる機会につながる、そんな取り組みでありたいです。　奈良 雅美(なら まさみ)

● 基金を創設することで、兵庫県が少しでも幸せな、生きがいのある街になればと思っています。妻の箏曲を中心とした音楽活動のマネジメントやステージ運営をしつつ和太鼓が趣味です。フィットネスクラブではウエイトやヒップホップに汗を流しており、今年の地域の秋まつりはマイケル・ジャクソンの「スリラー」を披露しましたよ。　永田 譲蔵(ながた じょうぞう)

● はじめまして、一期一会でさようなら。流浪の巡礼者、平成の世の善財童子、行き着く先はどこへやら。我が身で何ができるでしょうか。光が出ている間に歩みを進めましょう。あしたには雲が覆ってしまうから。Live for nothing or Die for something. Your call.　大伴 直也(おおとも なおや)

● 昨年の 6 月から東日本大震災支援活動で福島県の NPO センターで被災地支援活動を行ってきました。今年の 4月に神戸に戻り、兵庫県に避難されてきている方たちを応援したいと思い、支援団体のネットワーク「避難サポートひょうご」に携わっています。また認定 NPO 相談も担当しています。最近の悩みは腰痛が治らないこと。　藤本 高英(ふじもと たかひで)

● 4月から会計を担当しております古寺です。子どもに手がかからなくなり、自宅外で仕事を始めたのがNPO法人でした。最初に所属した団体を退職した後もいろいろなNPO法人からお声掛けいただいて会計を担当しております。KECにはNPO法人会計の大先輩である荻野さんのご紹介でまいりました。まだまだ全体像がつかめず、あたふたとしながら何とか頑張っています。　古寺 瑞代(こでら みずよ)

● 養父市大屋町の「木彫フォークアートおおや」に行ってきました。中心人物である木彫作家の松田一戯さんが、町のいたるところで住民から声をかけられていた姿が印象的でした。公募展は今年で 19 回目、地域に根ざしふるさとの活性化にたずさわってこられたことに頭が下がります。全国から集まった作品も素晴らしく、兵庫が誇るアートイベントとして応援したいと思いました。　入江 陽子(いりえ ようこ)